

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和元年12月分）

【製造業】不安定な海外情勢の影響が見られる

- 製造業は、鉱工業生産指数で化学工業やはん用機械をはじめ多くの産業で前月比低下した。ヒアリングにおいては、売上や受注に上向きの兆しが伺えるような声も聞かれたが、最近の不安定な海外情勢により、輸送用機械、生産用機械を中心に、影響が出ているとの声も聞かれた。

【地場産業】厳しい状況が継続している

- 地場産業は、鉱工業生産指数で家具、繊維工業をはじめ多くの産業で前月比低下した。ヒアリングにおいては、市場の悪化や原材料費の高騰に対する懸念の声が継続的に聞かれている。

【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、工作機械受注額について、国内向けは12ヶ月連続、海外向けは13ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、効率化等に向けて積極的な投資姿勢の企業もあれば、先行きの不透明感から投資計画を見直す企業もある。

【個人消費】暖冬の影響が見られる

- 個人消費は、小売店の11月の販売額については、百貨店・スーパーや家電大型専門店、ホームセンターで前年同月比減少している。ヒアリングにおいては、暖冬も消費動向に影響しているとの声が聞かれた。

【観光】アジア圏からの宿泊予約が増加している

- 観光は、紅葉の見ごろを迎えた11月の観光客数は、前年同月を上回った。足元では、旧正月を控え、アジア圏からの宿泊予約が増加傾向にある。

【資金繰り】資金繰り環境に変化はないが、外部要因による影響が懸念される

- 企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、海外情勢の動向はじめ、企業を取り巻く環境の影響等を注視している。

【雇用】人手不足の状態が慢性化しているが、一部に解消の兆しもある

- 雇用面は、有効求人倍率等の関連指標は下降傾向にあるものの、依然として人手不足は慢性化した状態と言える。一方、ヒアリングにおいては、受注量の落ち着きを主因として、人手不足感が薄まってきているとの声も聞かれている。

【景気動向】

景気動向指数（一致指数）は5ヶ月ぶりに上昇し、中小企業における景況感も2ヶ月ぶりに上昇した。